◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

（仮称）
相模鉄道本線（鶴ヶ峰駅付近）
連続立体交差事業

環境影響評価準備書の概要

令和3年1月12日

横浜市

説明内容

1. 事業計画の概要

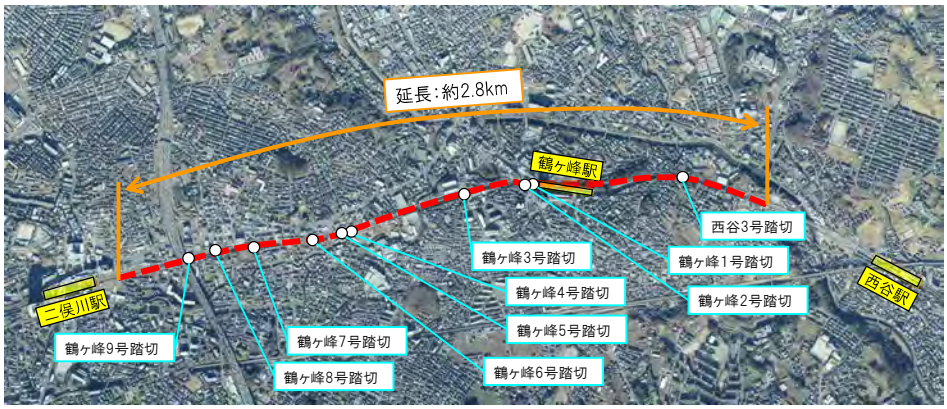
2. 環境影響評価準備書の内容

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

1. 事業計画の概要

対象事業実施区域周辺の状況

準備書p. 2-3～4



：対象事業実施区域
○：除去される踏切

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

都市計画対象事業の概要

準備書p. 2-1

都市計画決定権者の名称並びに当該対象事業を実施しようとする者の氏名及び住所	【都市計画決定権者】 横浜市 【当該対象事業を実施しようとする者】 名称　横浜市 代表者の氏名　林　文子 主たる事務所の所在地 横浜市中区本町6丁目50番地の10
都市計画対象事業の名称	(仮称)相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)連続立体交差事業
都市計画対象事業の種類、規模	鉄道及び軌道の建設(鉄道の改良) (第1分類事業) 延長:約2.8km

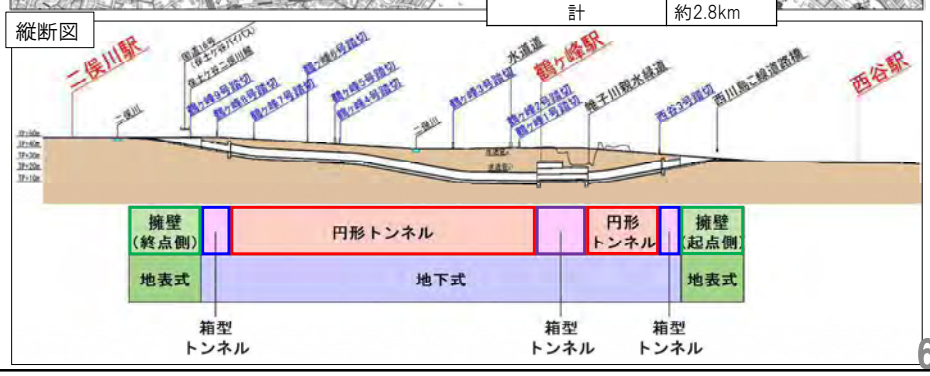
都市計画対象事業の内容

準備書p. 2-11、2-16～17

平面図

円形トンネル区間	約1.7km
箱型トンネル区間	約0.2km
擁壁区間	約0.7km
駅区間	約0.2km
計	約2.8km

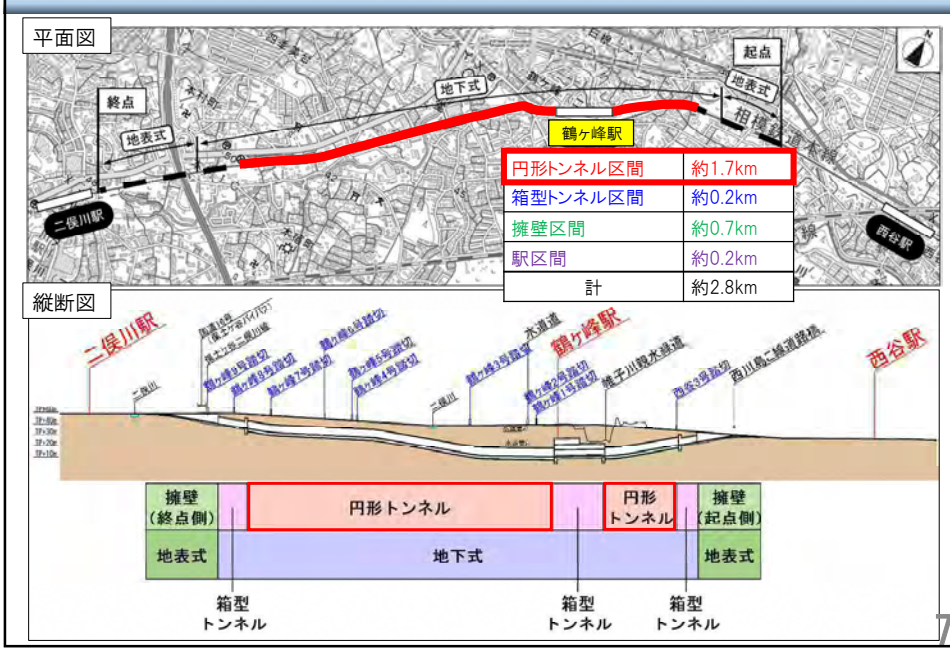
縦断図



◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

都市計画対象事業の内容

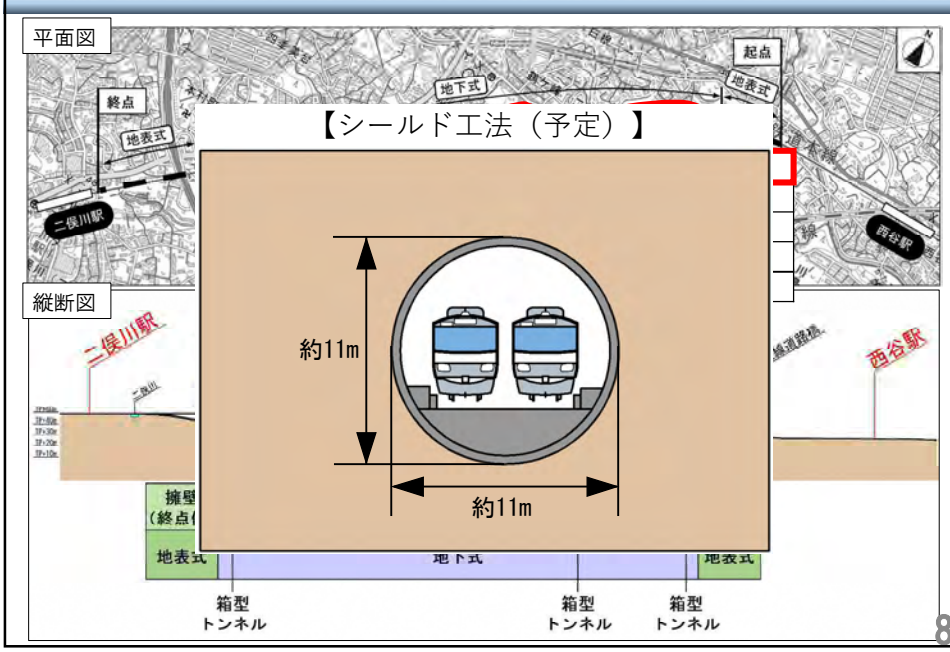
準備書p. 2-11、2-16～17



円形トンネル区間	約1.7km
箱型トンネル区間	約0.2km
擁壁区間	約0.7km
駅区間	約0.2km
計	約2.8km

都市計画対象事業の内容

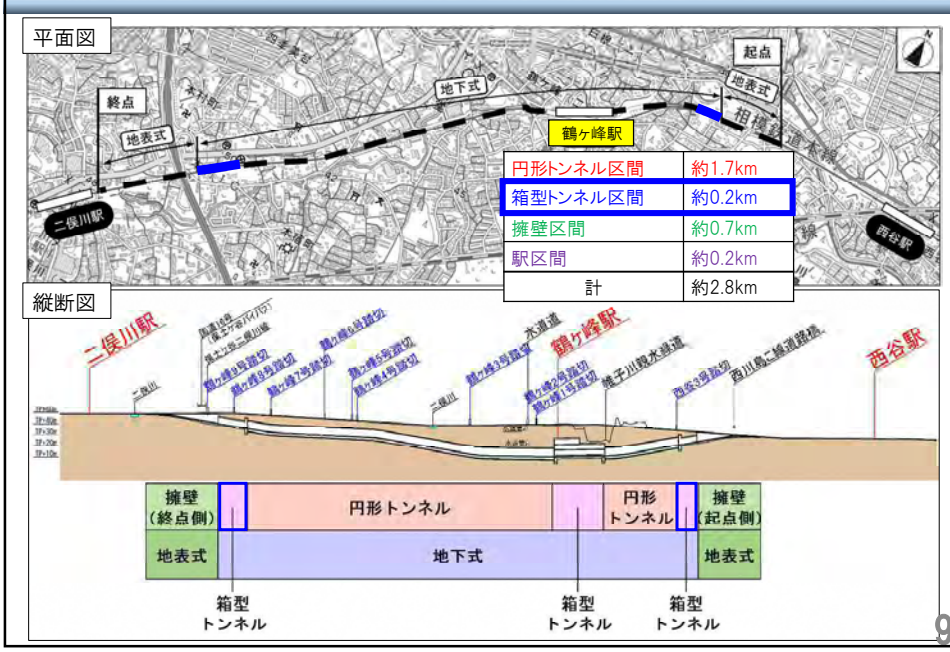
準備書p. 2-11、2-16～17



◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

都市計画対象事業の内容

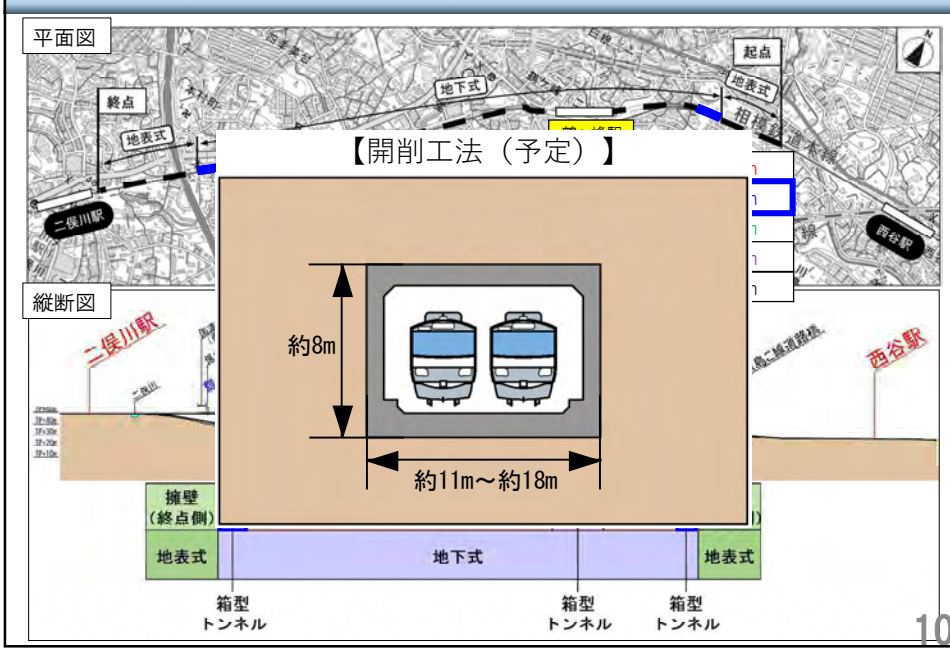
準備書p. 2-11、2-16～17



円形トンネル区間	約1.7km
箱型トンネル区間	約0.2km
擁壁区間	約0.7km
駅区間	約0.2km
計	約2.8km

都市計画対象事業の内容

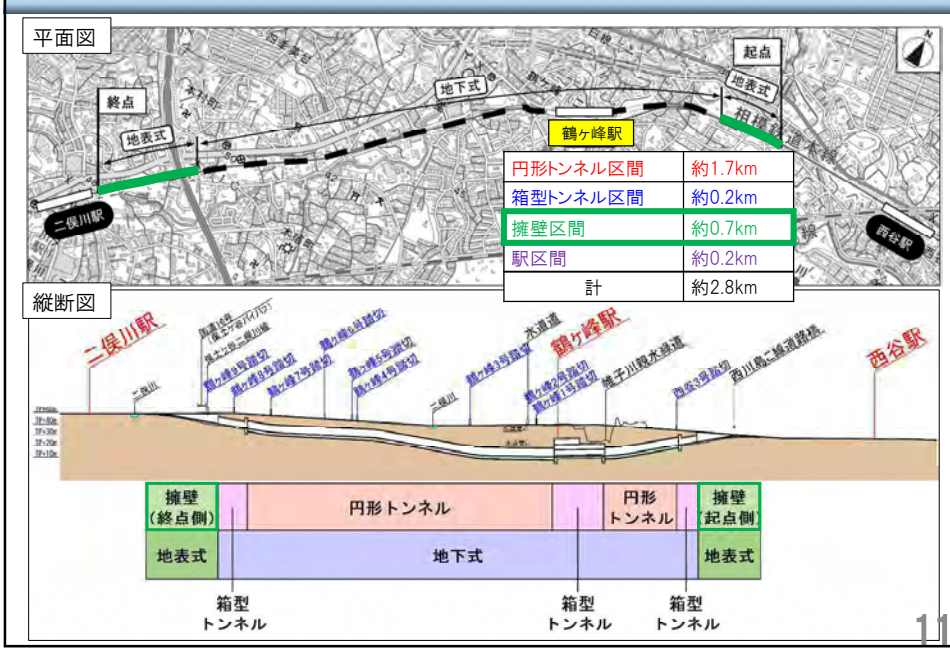
準備書p. 2-11、2-16～17



◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

都市計画対象事業の内容

準備書p. 2-11、2-16～17

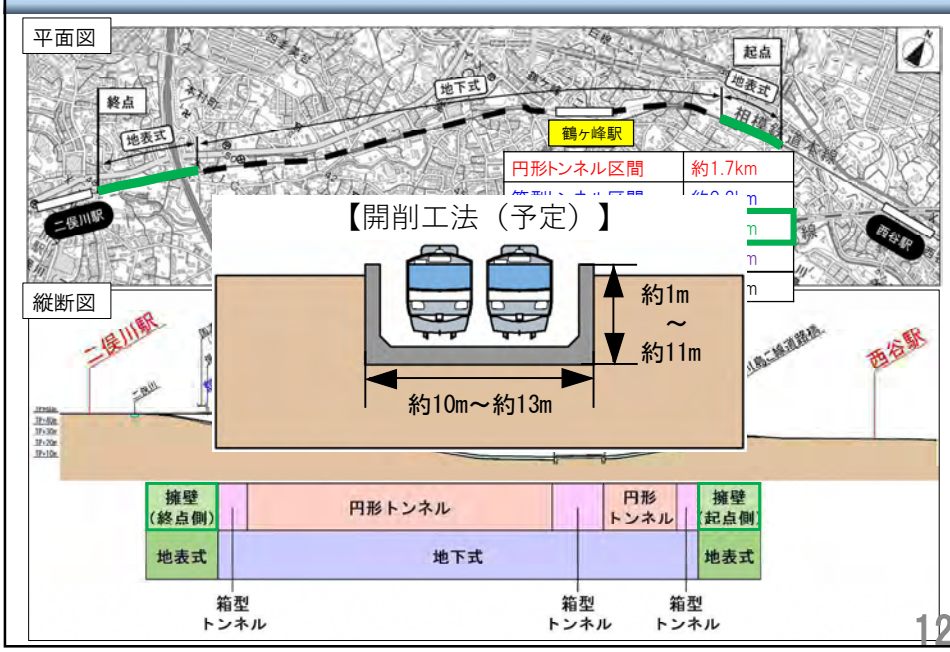


円形トンネル区間	約1.7km
箱型トンネル区間	約0.2km
擁壁区間	約0.7km
駅区間	約0.2km
計	約2.8km

11

都市計画対象事業の内容

準備書p. 2-11、2-16～17

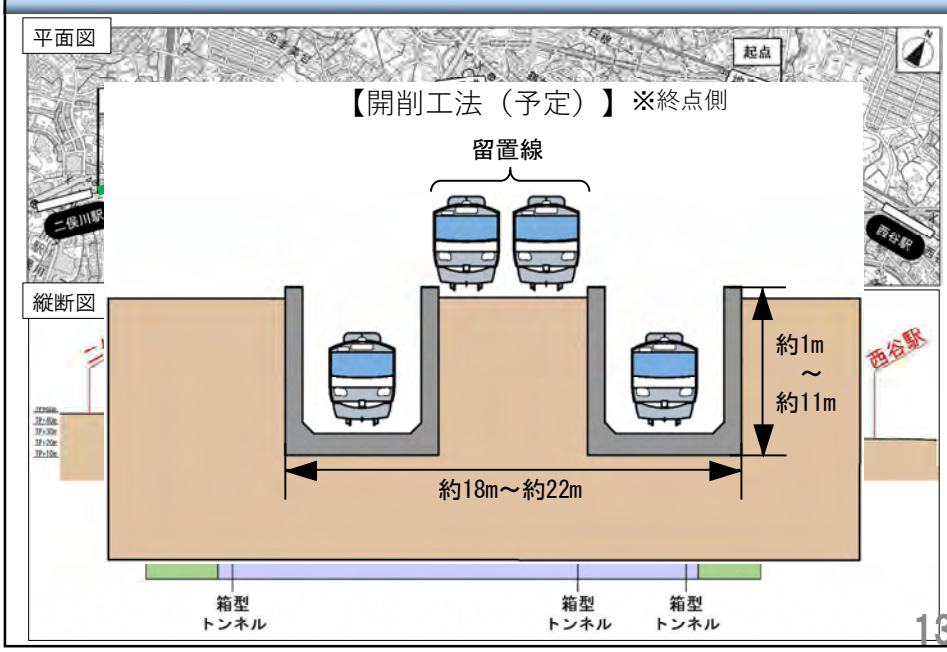


12

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

都市計画対象事業の内容

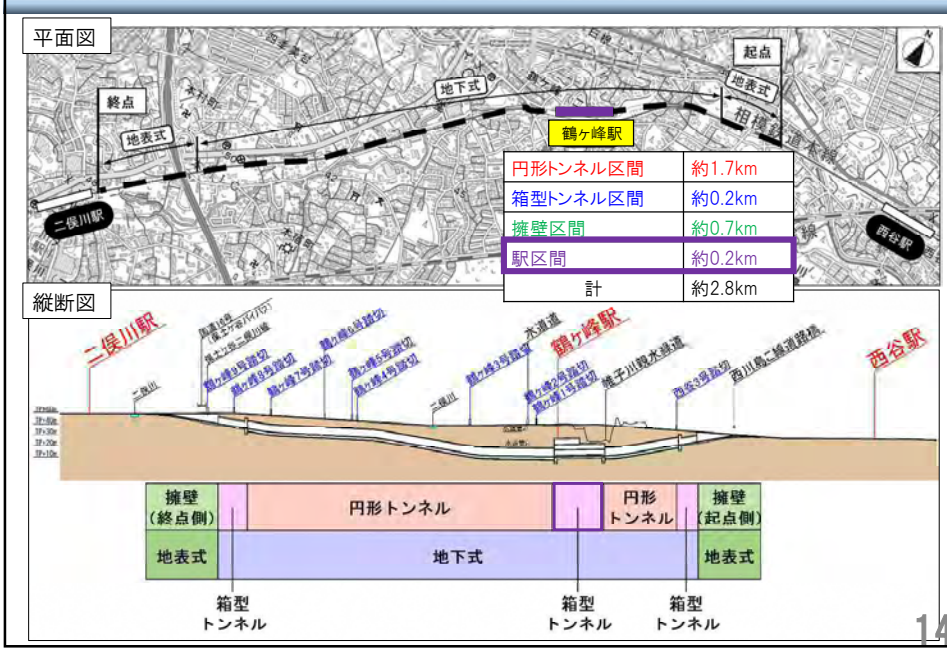
準備書p. 2-11、2-16～17



13

都市計画対象事業の内容

準備書p. 2-11、2-16～17

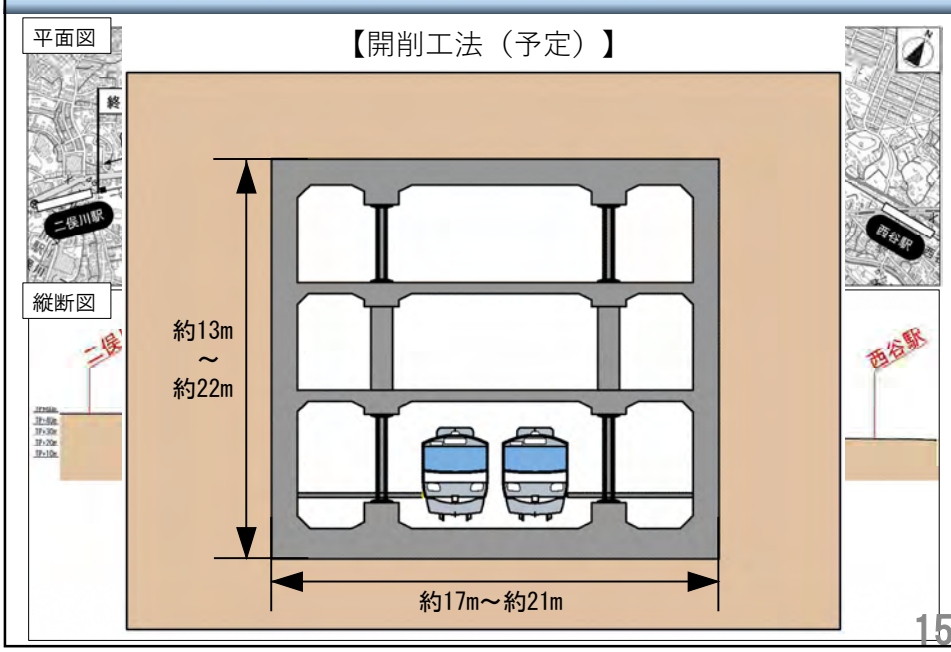


円形トンネル区間	約1.7km
箱型トンネル区間	約0.2km
擁壁区間	約0.7km
駅区間	約0.2km
計	約2.8km

14

都市計画対象事業の内容

準備書p. 2-11、2-16～17



15

2. 環境影響評価準備書の内容

16

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

環境影響要因と環境影響評価項目の関連表①

準備書p. 5-2

環境の保全及び創造に向けた基本的な考え方	環境影響評価項目		細目	工事中 建設機械の稼働	工事中 工事用車両の走行	工事中 列車の走行(工事中)	工事中 切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去	供用時 施設の存在 鉄道施設(地表式)の存在	供用時 施設の存在 鉄道施設(※地下式)の存在	供用時 施設の供用 列車の走行(地上)	供用時 施設の供用 列車の走行(地下)	供用時 施設の供用 駅舎の供用
地球環境への負荷の低減	温室効果ガス		温室効果ガス	○	○	－	－	－	－	－	－	－
身近な自然環境の保全・再生・創造	生物多様性	動物	動物	－	－	－	○	－	○	－	－	－
		植物	植物	－	－	－	○	－	○	－	－	－
		生態系	生態系	－	－	－	○	－	○	－	－	－
	水循環		地下水位	－	－	－	○	－	○	－	－	－
			河川の形態、流量	－	－	－	○	－	－	－	－	－
安心して快適に生活できる生活環境の保全	廃棄物・建設発生土		産業廃棄物	－	－	－	○	－	－	－	－	－
			建設発生土	－	－	－	○	－	－	－	－	－
	大気質		大気汚染	○	○	－	－	－	－	－	－	－

※工事後に復旧する地下構造物直上の地表を含む。

環境影響要因と環境影響評価項目の関連表②

準備書p. 5-2

環境の保全及び創造に向けた基本的な考え方	環境影響評価項目	細目	工事中 建設機械の稼働	工事中 工事用車両の走行	工事中 列車の走行(工事中)	工事中 切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去	供用時 施設の存在 鉄道施設(地表式)の存在	供用時 施設の存在 鉄道施設(※地下式)の存在	供用時 施設の供用 列車の走行(地上)	供用時 施設の供用 列車の走行(地下)	供用時 施設の供用 駅舎の供用
安心して快適に生活できる生活環境の保全	水質・底質	公共用水域の水質	－	－	－	○	－	－	－	－	－
	騒音	騒音	○	○	○	－	－	－	○	－	－
	振動	振動	○	○	－	－	－	－	○	○	－
	地盤	地盤沈下	－	－	－	○	－	○	－	－	－
	安全	土地の安定性	－	－	－	○	－	－	－	－	－
		地下埋設物	－	－	－	○	－	－	－	－	－
快適な地域環境の確保	地域社会	交通混雑	－	○	－	－	－	－	－	－	－
		歩行者の安全	－	○	－	－	－	－	－	－	－
	景観	景観	－	－	－	－	○	○	－	－	－
	触れ合い活動の場	触れ合い活動の場	－	－	－	○	－	○	－	－	－

※工事後に復旧する地下構造物直上の地表を含む。

温室効果ガス

予測結果

準備書p. 6. 1-12、15

工事中（建設機械の稼働）

区分	CO_2排出量（tCO_2/期間）
建設機械	約16,737

工事中（工事用車両の走行）

区分	CO_2排出量（tCO_2/期間）
工事用車両	約11,065

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 1-10、12、16

工事中

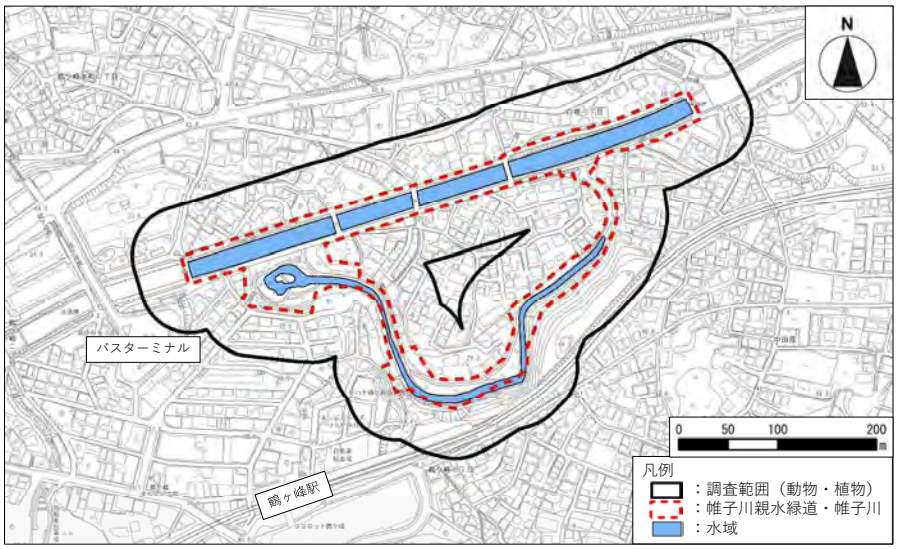
- 可能な限り低炭素型建設機械および低燃費車種を採用します。
- 正常な運転を実施できるよう、建設機械の整備・点検を徹底します。
- 建設機械の使用に際しては、可能な範囲で省エネモードでの作業に努めます。
- 積載の効率化、合理的な運搬計画の策定による運搬距離の最適化に努めます。

●環境保全目標
温室効果ガス排出量を可能な限り抑制すること

生物多様性（動物・植物・生態系）

調査地点

準備書p. 6. 2-8～9、6. 3-7



調査結果

準備書p. 6. 2-17～22、6. 3-16～19

現地調査にて確認された動物	
分類	確認種数
哺乳類	7種
鳥類	46種
爬虫類	5種
両生類	1種
昆虫類	513種
魚類	19種
底生動物	140種

現地調査にて確認された植物	
分類	確認種数
シダ植物	32種
種子植物	285種
付着藻類	94種

予測結果

準備書p. 6. 2-45～63、6. 3-27～30、6. 4-10～11

工事中

- ■ 帷子川親水緑道を改変するため、親水緑道及びその周辺に生息・生育する種の生息・生育環境が一時的に減少しますが、その範囲は限定的であり、改変範囲外は生息・生育環境が維持されます。

供用時

- ■ 施設の供用にあたり新たな改変等は生じません。
- ■ 復旧においては、緑道施設としての機能を確保しつつ、生息・生育基盤としても現況から大きく変化しないよう、可能な限り配慮します。
- ➢ 動物種・植物種の生息・生育環境は概ね維持され、生息・生育する動物相、植物相及び植生についての影響は小さいと予測します。
- ➢ 生物多様性の変化は小さい、または現在と同程度になるものと予測します。

環境保全目標

準備書p. 6. 2-44、6. 3-26、6. 4-8

工事中 **供用時**

●環境保全目標

【動物・植物】
動物相、植物相及び生息・生育環境への影響を最小限に留め、多様性を維持すること

【生態系】
地域の生物多様性に係る影響を最小限に留めること

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 2-64、6. 3-31、6. 4-11

工事中 **供用時**

- 工事に伴う改変範囲を可能な限り小さくするよう、施工計画を検討します。
- 工事中も、親水水路の改変範囲以外における水の流下が確保されるよう施工計画を検討します。
- 改変範囲内に含まれる注目すべき種については、工事の着手前に本種の生育状況を確認すると共に、改変範囲内に個体が確認された場合には、公園管理者と協議の上、必要に応じて移植・播種を実施します。
- 改変部の復旧にあたっては、現況と同程度の機能を維持できる形で緑化を行います。

水循環（地下水位）

予測結果

準備書p. 6. 5-16～18、20～23

工事中

浅層地下水	最大上昇量（m）	最大低下量（m）
	約2.0	約2.5

深層地下水	最大上昇量（kPa）	最大低下量（kPa）
	約55	約53

供用時

浅層地下水	最大上昇量（m）	最大低下量（m）
	約2.0	約2.2

深層地下水	最大上昇量（kPa）	最大低下量（kPa）
	約60	約48

＜水位の低下について＞

■ 水位、水圧変化が比較的大きい範囲は地下構造物の近傍に留まります。

＜水位の上昇について＞

■ 水位変化及び水圧変化により、その影響が地表に及ぶことはありません。

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 5-12、19、24

工事中 **供用時**

■ 適切な設計及び施工により、止水性を確保した構造物を構築します。

■ 工事着手前から地下水位の継続的なモニタリングを行い、工事による影響を常に把握しながら適切な施工管理を行います。

●環境保全目標
地下水位の変動に伴う地域への影響を可能な限り抑制すること

地盤

予測結果

準備書p. 6. 12-7～8

工事中 **供用時**

- 水循環（地下水位）の予測結果および対象事業実施区域沿いの地質状況※から、地下水の低下に伴う地盤沈下は生じないものと予測します。

※ 一般に、沖積堆積物の軟弱粘性土が広範囲に厚く分布している場合、地下水の大きな低下に伴い軟弱地盤の収縮が生じ、圧密沈下が生じる可能性が考えられます。
しかし、地質調査の結果から、地下水が比較的大きく低下する対象事業実施区域の近傍には、沖積粘性土層が広範囲に厚く分布している可能性は小さいと考えます。

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 12-6、8

工事中　供用時

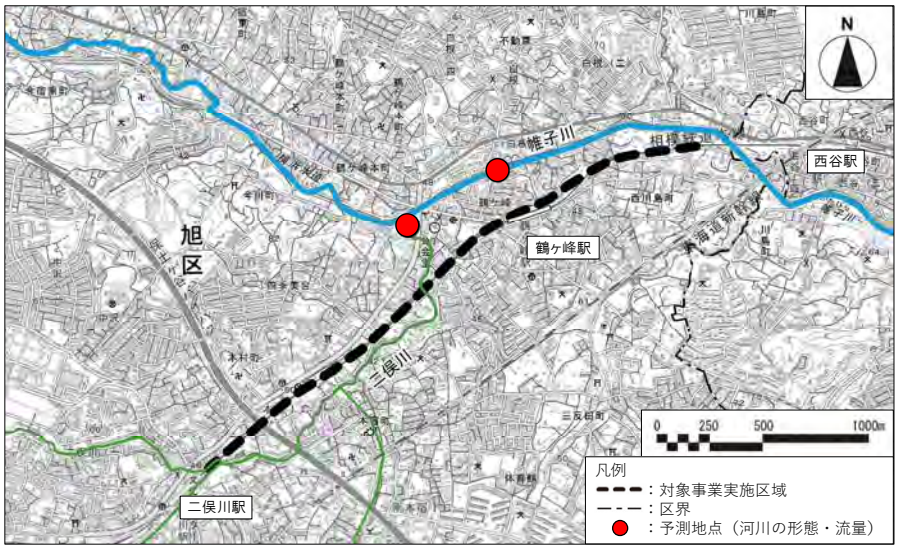
- 入念な施工管理の下、剛性の高い土留壁の構築やシールドマシンの管理を確実に行い、改変に伴う地表面への影響を防止します。
- 適切な設計及び施工により、止水性を確保した構造物を構築することで、地盤沈下の要因となる地下水の低下を低減します。

●環境保全目標
地盤変動を抑制し、地域に著しい影響を生じさせないこと

水循環（河川の形態・流量）

予測地点

準備書p. 6. 6-4、8



予測結果

準備書p. 6. 6-9

工事中

地点	時期	河川の流量（m³/時）	工事排水の排出量（m³/時）	工事排水の割合（%）
帷子川	低水期	3,816	30	0.8
	豊水期	4,068		0.7
二俣川	低水期	504		6.0
	豊水期	612		4.9

■ 工事排水の排出量は排出先の河川流量に対して0.7～6.0%程度です。

➢ 河川流量に大きく寄与するものではないと予測します。

■ 帷子川及び二俣川は人工物による護岸整備が施されています。

➢ 河川の形態が著しく変化することはないと予測します。

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 6-7、9

工事中

■ 工事排水は原則、公共下水道に排出するよう努めますが、公共用水域(河川)にも排出する必要が生じた場合には、予め河川管理者との協議を行い排出量の上限などを確認するとともに、協議結果を踏まえた排出計画を策定し、実行します。

●環境保全目標
工事排水の排出先となる河川の形態・流量に著しい変化を及ぼさないこと

廃棄物・建設発生土

予測結果

準備書p. 6. 7-16～17

工事中

＜産業廃棄物＞

コンクリート塊 (t)	アスファルト塊 (t)	鉄材 (t)	砕石 (t)
約11,000	約300	約1,540	約14,800

＜汚泥＞

汚泥 (m^3)
約217,100

＜建設発生土＞

建設発生土 (m^3)
約178,900

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 7-15、17

工事中

- 建設汚泥は脱水処理等により減量化するとともに、事業内での再利用に努め、場外に搬出する総量の削減に努めます。
- 建設発生土は事業内での再利用に努め、事業外に搬出する総量の削減に努めます。
- 産業廃棄物は場内で細かく分別し、再資源化施設に持ち込み、可能な限り有効利用します。

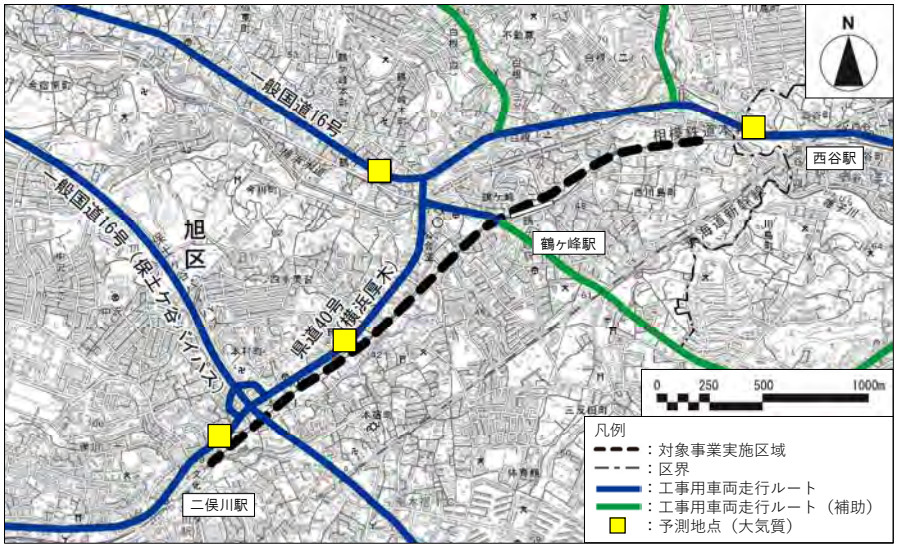
●環境保全目標
工事により発生する産業廃棄物及び建設発生土の発生抑制・再利用・再資源化、並びにこれらの適正な処理が行われること

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

大気質

予測地点

準備書p. 6. 8-14、27～28



予測結果

準備書p. 6. 8-14、25

工事中（建設機械の稼働）

二酸化窒素 （1日平均値の年間98%値）	予測値(ppm)
	0.038～0.046

浮遊粒子状物質 （1日平均値の年間2%除外値）	予測値(mg/m³)
	0.046～0.048

●環境保全目標
周辺の生活環境に著しい影響を及ぼさないこと
二酸化窒素（1日平均値の年間98%値）：0.06ppm以下
浮遊粒子状物質（1日平均値の年間2%除外値）：0.10mg/m³以下

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 8-26

工事中（建設機械の稼働）

- 可能な限り排ガス対策型建設機械を使用します。
- 施工計画を十分に検討し、建設機械の集中稼働を回避します。
- 工事関係者に対して、入場前教育や作業前ミーティングにおいて建設機械のアイドリングストップの徹底を周知し、不要な空ぶかしなどの高負荷運転をしないための指導・教育も徹底します。

予測結果

準備書p. 6. 8-14、36

工事中（工事用車両の走行）

二酸化窒素 （1日平均値の年間98%値）	予測値（ppm）
	0.035～0.036

浮遊粒子状物質 （1日平均値の年間2%除外値）	予測値（mg/m³）
	0.045

●環境保全目標
周辺の生活環境に著しい影響を及ぼさないこと
二酸化窒素（1日平均値の年間98%値）：0.06ppm以下
浮遊粒子状物質（1日平均値の年間2%除外値）：0.10mg/m³以下

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 8-37

工事中（工事用車両の走行）

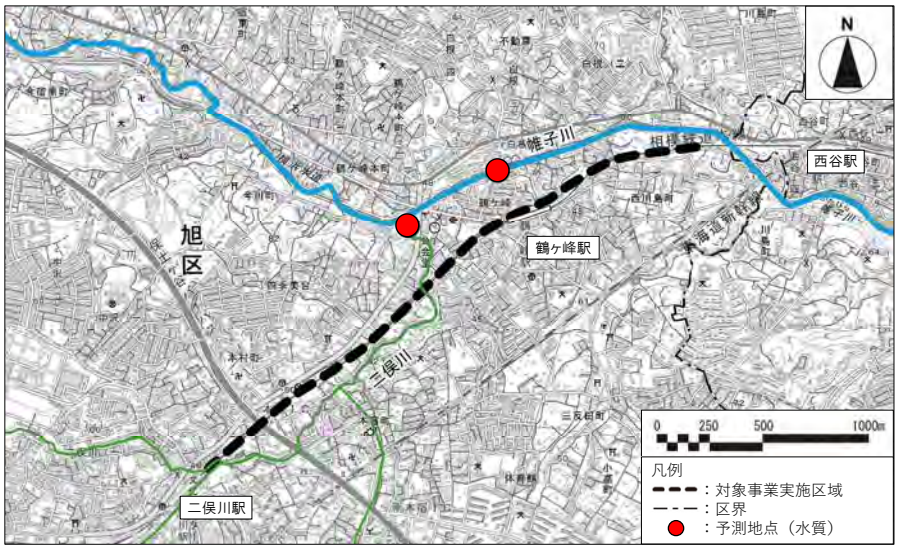
- 工事用車両が特定の日または時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理を行います。
- 工事関係者に対して、入場前教育や作業前ミーティングにおいて工事用車両のアイドリングストップの徹底を周知し、不要な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないための指導・教育も徹底します。

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

水質

予測地点

準備書p. 6. 9-4、13



予測結果

準備書p. 6. 9-13、16

工事中

地点	時期	浮遊物質量(mg/L)	水素イオン濃度
帷子川	低水期	2.5	7.6～7.9
	豊水期	2.5	7.3～7.4
二俣川	低水期	4.9	7.0～7.9
	豊水期	4.2	7.1～7.9

●環境保全目標
工事排水の排出先となる河川の水質を大きく悪化させないこと
浮遊物質量(SS):25mg/L以下
水素イオン濃度(pH):6.5以上8.5以下

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 9-16

工事中

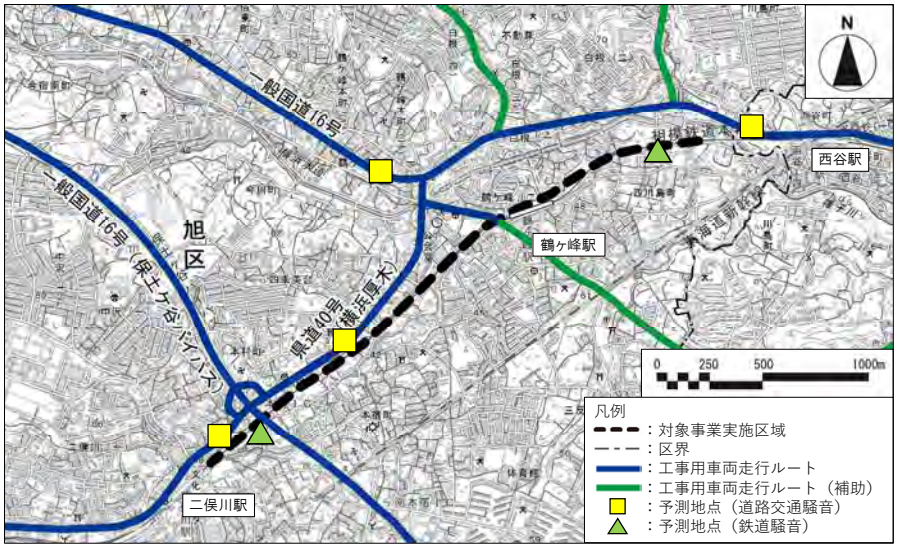
- 工事排水は原則、公共下水道に排出するよう努めますが、公共用水域(河川)にも排出する必要が生じた場合には、沈殿槽やpHを調整する処理施設を設け、適切に処理した上で排出します。
- 工事排水の処理を適切に実施できるよう、処理施設の点検・整備を徹底します。
- 工事排水の水質を定期的に測定し、適正な処理が行われているかを確認することで、工事排水の水質管理を徹底します。

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

騒音

予測地点

準備書p. 6. 10-7、17、27、33、40



予測結果

準備書p. 6. 10-17、22～25

工事中（建設機械の稼働）

騒音レベル（L_{A5}）	予測値（デシベル）
	65～75

●環境保全目標
騒音規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」である85デシベル以下とすること

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 10-26

工事中（建設機械の稼働）

- 可能な限り低騒音型建設機械を使用します。
- 工事内容に合わせた建設機械を設定します。
- 施工計画を十分に検討し、建設機械の集中稼働を回避します。

予測結果

準備書p. 6. 10-32

工事中(工事用車両の走行)

騒音レベル(L_{Aeq})	予測値(デシベル)	工事用車両による増分(デシベル)
	67～71	0～1

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 10-17、32

工事中(工事用車両の走行)

- 工事用車両が特定の日または時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理を行います。
- 正常な運転を実施できるよう、工事用車両の整備・点検を徹底します。

●環境保全目標
現況の道路交通に起因する騒音を大きく悪化させることなく、周辺の生活環境に著しい影響を及ぼさないこと

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

予測結果

準備書p. 6. 10-39

工事中（列車の走行）

		予測値（デシベル）	現況値（デシベル）
騒音レベル（L_{Aeq}）	昼間	63～65	60～64
	夜間	58～60	55～59

※　昼間7:00～22:00、夜間22:00～翌日7:00

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 10-17、39

工事中（列車の走行）

■ 徹底した車両及び軌道の維持管理により、車輪やレールの摩耗、車両機器のメンテナンス不足に起因した過度な騒音の発生を防止します。

●環境保全目標
可能な限り、騒音の影響を抑制すること。

予測結果

準備書p. 6. 10-42

供用時(列車の走行)

		予測値 (デシベル)	現況値 (デシベル)
騒音レベル (L_{Aeq})	昼間	59～64	60～64
	夜間	55～59	55～59

※ 昼間7:00～22:00、夜間22:00～翌日7:00

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 10-17、43

供用時(列車の走行)

■ 徹底した車両及び軌道の維持管理により、車輪やレールの摩耗、車両機器のメンテナンス不足に起因した過度な騒音の発生を防止します。

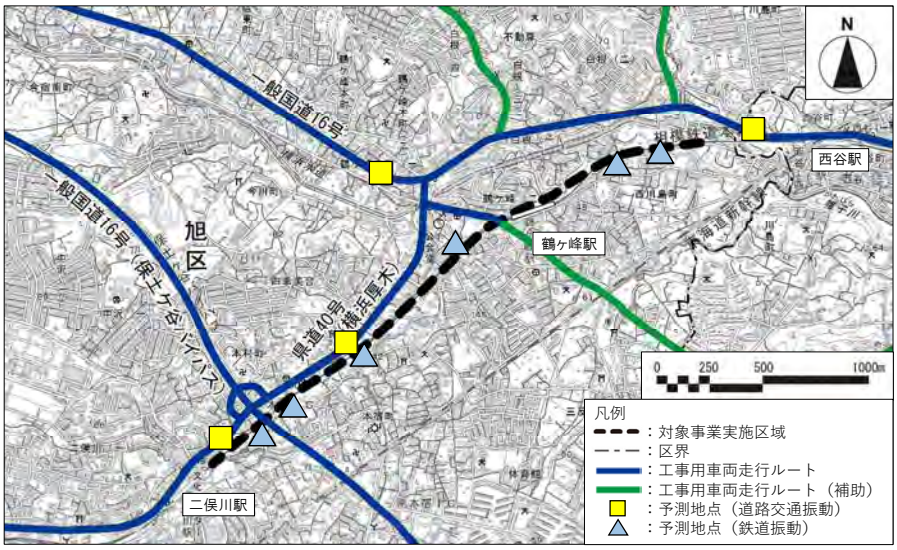
●環境保全目標
「在来鉄道の新設又は大規模改良に際しての騒音対策の指針について」との整合が図られていること

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

振動

予測地点

準備書p. 6. 11-6、16、25、30



予測結果

準備書p. 6. 11-15、20～23

工事中（建設機械の稼働）

振動レベル（L_{10}）	予測値（デシベル）
	45～66

●環境保全目標
振動規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準」である75デシベル以下とすること

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 11-24

工事中（建設機械の稼働）

- 可能な限り低振動型建設機械を使用します。
- 工事内容に合わせた建設機械を設定します。
- 施工計画を十分に検討し、建設機械の集中稼働を回避します。

予測結果

準備書p. 6. 11-29

工事中(工事用車両の走行)

振動レベル(L_{10})	予測値(デシベル)	工事用車両による増分(デシベル)
	40～46	1～2

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 11-15、29

工事中(工事用車両の走行)

- 工事用車両が特定の日または時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理を行います。
- 正常な運転を実施できるよう、工事用車両の整備・点検を徹底します。

●環境保全目標
現況の道路交通に起因する振動を大きく悪化させることなく、周辺の生活環境に著しい影響を及ぼさないこと

予測結果

準備書p. 6. 11-15、35

供用時(列車の走行)

振動レベル	予測値(デシベル)
	46～54

●環境保全目標
「鉄道公害の防止対策について」(昭和49年　横浜市公害対策審議会建議)における保全目標値である0.5mm/sec以下(約65デシベルに相当)とすること

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 11-35

供用時(列車の走行)

■ 徹底した車両及び軌道の維持管理により、車輪やレールの摩耗、車両機器のメンテナンス不足に起因した過度な振動の発生を防止します。

安全（土地の安定性）

予測結果

準備書p. 6. 13-18

工事中

■ 改変範囲の一部には急斜面も含まれます。

➢ 万全な安全対策を講じ、周辺の安全を適切に確保した上で工事を実施する必要があると予測します。

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 13-17～18

工事中

- 急斜面や地盤の状況を十分把握した上で設計及び施工計画の検討を行い、最適な構造・工法・施工管理方法を採用することで、安全を確保します。
- 帷子川親水緑道の急斜面の改変にあたっては、斜面の状況を十分把握し、関係機関と調整しながら、斜面の安全を確保するための保護方法を検討します。

●環境保全目標
急傾斜地の改変にあたり、安全性が確保されること

安全（地下埋設物）

予測結果

準備書p. 6. 14-6

工事中

■ 本事業では、対象事業実施区域と抵触または近接する地下埋設物が複数存在します。

➢ 地下埋設物が損傷しないよう十分留意する必要があると予測します。

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 14-6～7

工事中

■ 適切な施工管理の下、地盤の状況を監視しながら工事を実施することで、地下埋設物への損傷を回避します。

■ 抵触する地下埋設物については、関係機関と協議を行った上で、切り回し等の適切な対策を講じます。

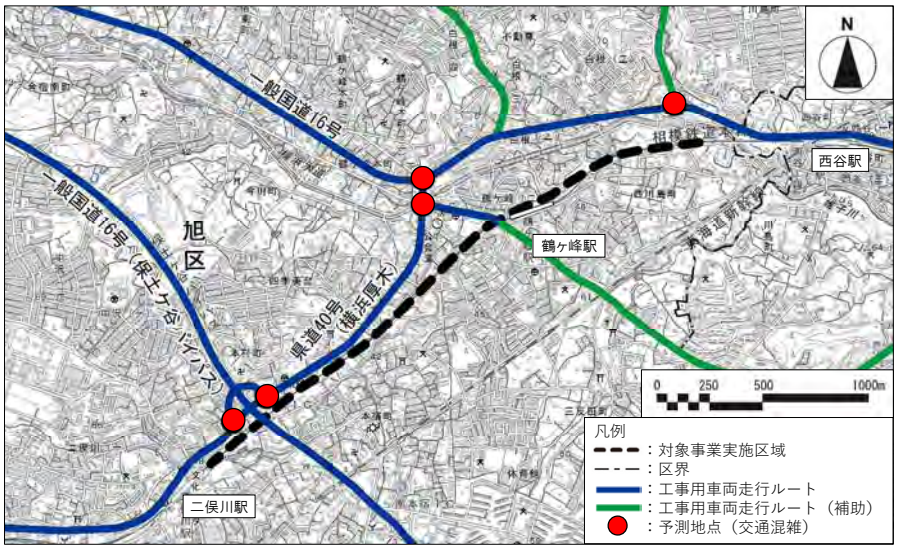
●環境保全目標
交差地下埋設物の安全が確保されること

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

地域社会（交通混雑、歩行者の安全）

予測地点

準備書p. 6. 15-5、25



予測結果

準備書p. 6. 15-27～29

工事中(交通混雑(自動車))

工事用車両の走行台数（台/時）	現況交通量に対する工事用車両走行台数の割合(%)	交差点需要率			限界需要率
		現況	工事中	増加分	
24～74	1.1～4.7	0.516～0.898	0.552～0.913	0.015～0.038	0.864～0.947

■ 現況交通量に対する工事用車両走行台数の割合は1.1～4.7%、交差点需要率の増加分は0.015～0.038程度ではあるものの、計画上混雑が確認されている交差点をやむを得ず通行する必要が生じます。

➢ 可能な限り現況交通量への負荷を軽減する必要があると予測します。

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 15-24、30

工事中(交通混雑(自動車))

■ 工事用車両が特定の日や時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理を行います。

■ 周辺道路での路上待機車両が発生しないよう、入退場時間の事前調整及び工事用車両の運転者への指導を徹底します。

●環境保全目標
周辺交通に著しい影響を及ぼさないこと

予測結果

準備書p. 6. 15-32

工事中（歩行者・自転車の安全）

■ 工事施工ヤード予定地周辺の主要道路では、マウントアップ等の歩道が整備されており、ほとんどの箇所で歩行者と自動車が分離されています。

➢ しかしながら、工事用車両が工事施工ヤード予定地へ出入りする際には歩行者・自転車の安全確保に十分配慮する必要があると予測します。

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 15-24、32

工事中（歩行者・自転車の安全）

■ 工事用車両の通行時には、工事施工ヤード出入口付近に交通誘導員を配置し、歩行者、自転車や一般通行車両の安全を確保します。

■ 工事用車両の運転者に対する交通安全教育を十分行い、規制速度、走行ルートの厳守を徹底します。

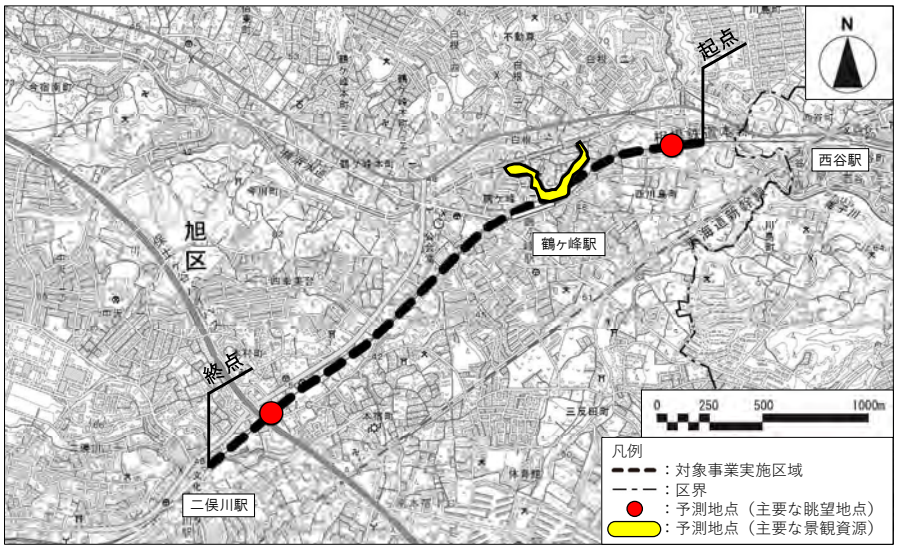
●環境保全目標
歩行者等の安全な通行が確保されること

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

景観

予測地点

準備書p. 6. 16-5、13、17



予測結果

準備書p. 6. 16-14

供用時(鉄道施設(地表式)の存在)

＜現況＞

予測結果

準備書p. 6. 16-14

供用時(鉄道施設(地表式)の存在)

＜将来のイメージ＞

主な環境の保全のための措置

準備書p. 6. 16-13、16

供用時(鉄道施設(地表式)の存在)

■ 転落防止柵等の付帯構造物の色彩に配慮することで、周辺の眺望景観との調和を図ります。

●環境保全目標
周辺景観との調和を著しく損なわないこと

85

予測結果

準備書p. 6. 16-13、18～19

供用時(鉄道施設(地下式)の存在)

■ 地域の景観資源と考えられる帷子川親水緑道の一部を改変します。

＜主な環境の保全のための措置＞

- 改変される回遊路、親水水路、芝地及び植栽については、改変しない区域との連続性を意識した復旧計画を検討し、周辺との調和を図ります。
- 急斜面部については、関係機関と調整しながら、斜面の安全性の確保を前提とした上で、残存する斜面及びその周辺との調和に配慮した復旧方法を検討します。

➢ 景観資源としての価値が著しく損なわれることはないものと予測します。

●環境保全目標
優れた景観を保全すること

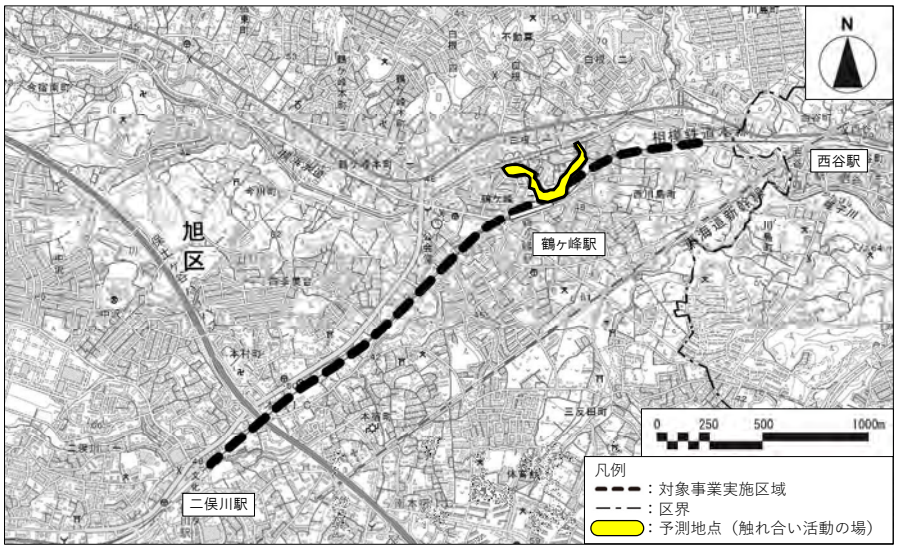
86

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

触れ合い活動の場

予測地点

準備書p. 6. 17-5、9、12



予測結果

準備書p. 6. 17-9～11

工事中

■ 工事の実施に伴い帷子川親水緑道の一部を改変するため、改変範囲及びその直近では触れ合い活動の場としての利用が困難となり、利用者の快適性も低下しますが、緑道全体に占めるその割合は限られています。

＜主な環境の保全のための措置＞

- 工事による影響が考えられる回遊路の代替通路の設置を検討します。
- 工事区域内への立ち入りによる事故防止や、工事騒音の低減のために設置する仮囲いについて、色彩等に配慮することで、利用者の快適性への影響を低減します。

➢ 触れ合い活動の場としての利用に著しい支障が生じることはないものと予測します。

●環境保全目標
触れ合い活動の場の利用に著しい影響を及ぼさないこと

予測結果

準備書p. 6. 17-9、12～13

供用時

■ 事業の実施に伴い、触れ合い活動の場である帷子川親水緑道の一部を改変します。

＜主な環境の保全のための措置＞

- 改変される回遊路、親水水路、芝地及び植栽については、改変しない区域との連続性を意識した復旧計画を検討し、現況に近い様相となるよう復旧します。
- 急斜面部については、関係機関と調整しながら、斜面の安全性の確保を前提とした上で、残存する斜面及びその周辺との調和に配慮した復旧方法を検討します。

➢ 触れ合い活動の場としての機能は保たれ、その利用に著しい支障が生じることはないものと予測します。

●環境保全目標
触れ合い活動の場の利用に著しい影響を及ぼさないこと

環境影響の総合的な評価

環境影響の総合的な評価

準備書p. 7-1

- 事業計画の内容から、環境影響評価項目として17項目を選定し、調査、予測を行った結果、国や横浜市が定めている基準を満足、または周辺環境に著しい影響を及ぼさないなどと予測されました。
- さらに、環境の保全のための措置を講じることで、影響の回避や低減に努めます。
- 環境に及ぼす影響が比較的大きいと考えられる環境影響評価項目や、予測または環境の保全のための措置の効果に不確実性が生じると考えられる環境影響評価項目については、事後調査を実施します。

事業者が実行可能な範囲で環境に対する配慮が行われた計画であると評価します。

事後調査

事後調査の項目

準備書p. 8-5～6

工事中

環境影響評価項目	調査項目
生物多様性(植物)	・移植・播種した植物種の生育状況
水循環(地下水位)	・地下水位
水循環(河川の形態・流量)	・工事排水の排出量
廃棄物・建設発生土	・廃棄物、建設発生土の発生量 ・処分及びリサイクルの状況
水質	・浮遊物質量、水素イオン濃度
騒音	・騒音レベル
振動	・振動レベル
地盤	・地盤変動量
地域社会(交通混雑)	・工事用車両の運行台数

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

事後調査の項目

準備書p. 8-7

供用時

環境影響評価項目	調査項目
生物多様性（動物）	・動物相の状況
生物多様性（植物）	・植物相の状況
水循環（地下水位）	・地下水位
騒音	・騒音レベル
振動	・振動レベル
地盤	・地盤変動量

ご清聴ありがとうございました。